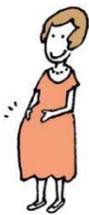


兵庫県における歯科口腔保健のこれまでの取組と今後の推進方策

① 妊産婦期

これまでの主な取組



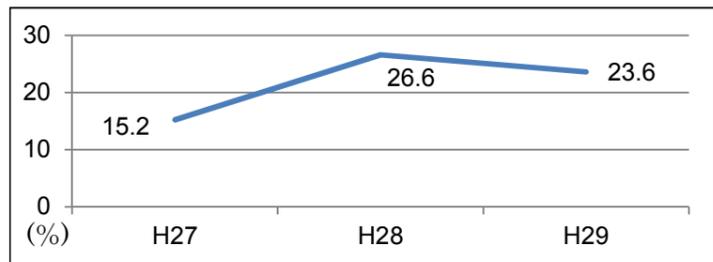
- (1) 市町実施の妊婦歯科健診実施率向上に向けて
  - 国保調整交付金による支援(H20～)
  - 妊婦歯科健診マニュアルの作成(H28)
- (2) 市町実施の妊婦歯科健診受診率向上に向けて
  - 母子健康手帳交付時に活用出来る啓発媒体の作成(H27～)
  - 産科から受診促進できるよう産科医及び助産師を対象とした研修の開催(H30)

【妊婦歯科健診の実施市町数の推移】

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
市町数	17	19	22	29	34	36	39

(健康増進課調べ)

【妊婦歯科健診の受診率の推移】



(健康増進課調べ)

- 97.5%の市町で妊婦歯科健診が行えるようになった
- 受診率は30%未満と低い状況が続いている

今後の推進方策

国保調整交付金\*1による支援を継続し、未実施市町への支援を行なう。

今後は受診率向上に向けて

- ・産科と連携した受診促進の取組が必要
- ・産婦を対象に自身だけでなく、子どもの虫歯予防等、家族を巻き込んだ対策が必要

② 乳幼児期・学齢期

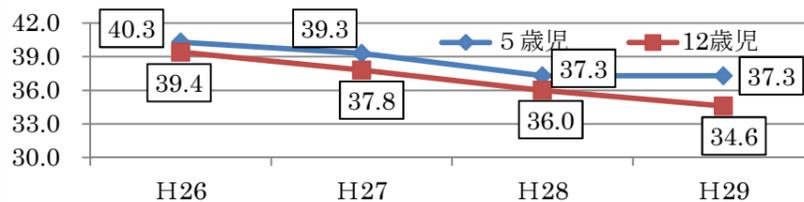
これまでの主な取組



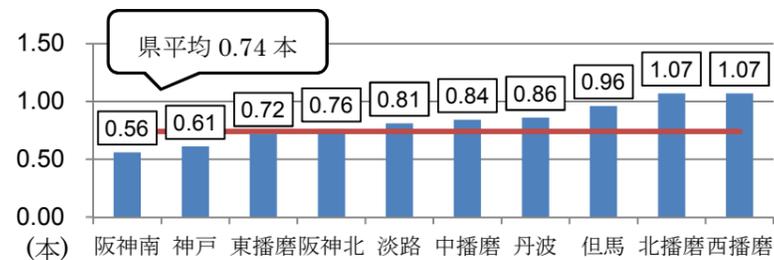
むし歯罹患者の減少に向けて

年度	実施主体	内容
22	県歯科衛生士会	普及啓発用媒体作成
23	県歯科医師会	保育所職員等対象の研修会開催(年1回)
24	県歯科医師会	保育所、幼稚園での健康教育(年10か所)
25		
26		

【5歳児と12歳児のむし歯罹患率の推移と地域格差】



【12歳児1人平均むし歯数の圏域格差】



(本) 阪神南 神戸 東播磨 阪神北 淡路 中播磨 丹波 但馬 北播磨 西播磨

(健康増進課調べ)

- 乳幼児期、学齢期のむし歯は減少傾向にある
- 健康格差、地域格差が大きい

今後の推進方策

保育所、認定こども園、幼稚園、学校における歯科健診等結果調査の集約を継続し、データを分析する

今後は地域格差、健康格差是正のため

- ・市町が実施するフッ化物応用等の技術的支援の実施
- ・子ども達が主体的に歯みがきなどを行えるよう、兵庫県独自の啓発用媒体を作成

③ 青年期

これまでの主な取組

若い世代への啓発と実態把握のため

年度	対象	内容
27	県内の大学生	大学内での体験学習とワークショップの開催
28		
29		実施なし

【27、28年度のモデル事業参加者へのアンケート結果から】

○歯や口のことで気になること (n=24)

	人数	%
A 歯並びや歯の色について	8	33.3
B むし歯や歯ぐきの病気について	15	62.5
C 食事に時間がかかる	3	12.5
D 歯みがきの道具の選び方について	5	20.8

○自身生活で実践していること (n=25)

	人数	%
A 食後の歯みがき	15	60.0
B 歯間ブラシやデンタルフロスの使用	9	36.0
C よく噛んで食べる	10	40.0
D 間食の時間を決めている	1	4.0
E 定期的な歯科健診の受診	2	8.0
F その他	1	4.0

(健康増進課調べ)

- 青年期の歯周病やむし歯の状況、口腔衛生習慣等の把握が必要

今後の推進方策

30年度のモデル歯科健診事業により、大学生の実態把握を行なう

- 今後は大学や学生が主体的に歯科保健対策に取り組めるよう
  - ・大学職員等への説明会や学生への啓発が必要